昭和６２年度厚生省心身障害研究
「川崎病に関する研究」

川崎病の急性期臨床症状と冠動脈瘤
（分担研究：川崎病心血管後遺症の追跡，管理に関する研究）

中野博行*

要約　川崎病の急性期臨床症状から冠動脈瘤発生の予測を試みる目的で主要症状の発現様式を検討したが，今回の分析からは冠動脈瘤の発生を予測し得る明らかな情報は得られなかった。

見出し語：川崎病，冠動脈瘤，早期予測，主要症状

研究方法　第９病日までに本院に入院し，急性期にアスピリンの単独治療をうけ，かつ主要症状の出現病日の記載が明瞭な川崎病罹患児126例を対象とした。対象を１歳未満と１歳以上に分けて検討した。冠動脈瘤は，１度以下を冠動脈瘤なし群（108例），２度以上を冠動脈瘤あり群（18例）とした。川崎病の急性期の主要症状である，発熱，発疹，眼球充血，口腔変化，手足発赤およびリンパ腺腫大の６項目についてその発現様式を分析した。

結果　分析内要は主要症状の，①出現数，②出現病日，③出現順序，④出揃う日数，などと冠動脈瘤の有無の関係について検討した。その結果，①今回の分析方法では，臨床症状から冠動脈瘤の発生を予測できる所見は得られなかった。②１歳未満と１

表１　発熱→発診→眼球充血→口腔変化の順に出現する頻度

	１歳未満	１歳以上	全　体
冠動脈瘤なし	58%	62%	62%
冠動脈瘤あり	71%	42%	57%

表２　発疹，眼球充血，口腔変化が２日以内に出現する頻度

	１歳未満	１歳以上	全　体
冠動脈瘤なし	67%	48%	53%
冠動脈瘤あり	29%	71%	50%

*静岡県立こども病院循環器科（Division of Pediatric Cardiology, Shizuoka Children's Hospital）

表 3　発熱，発疹，眼球充血，口腔変化が出揃う日数

		2日	3日	4日	5日	6日以上	平均日数
1以未満	冠動脈瘤なし	37%	13%	25%	27%	25%	3.5
	冠動脈瘤あり	0%	28%	58%	14%	0%	3.9
1歳以上	冠動脈瘤なし	7%	22%	35%	23%	13%	4.2
	冠動脈瘤あり	0%	0%	58%	14%	28%	4.7

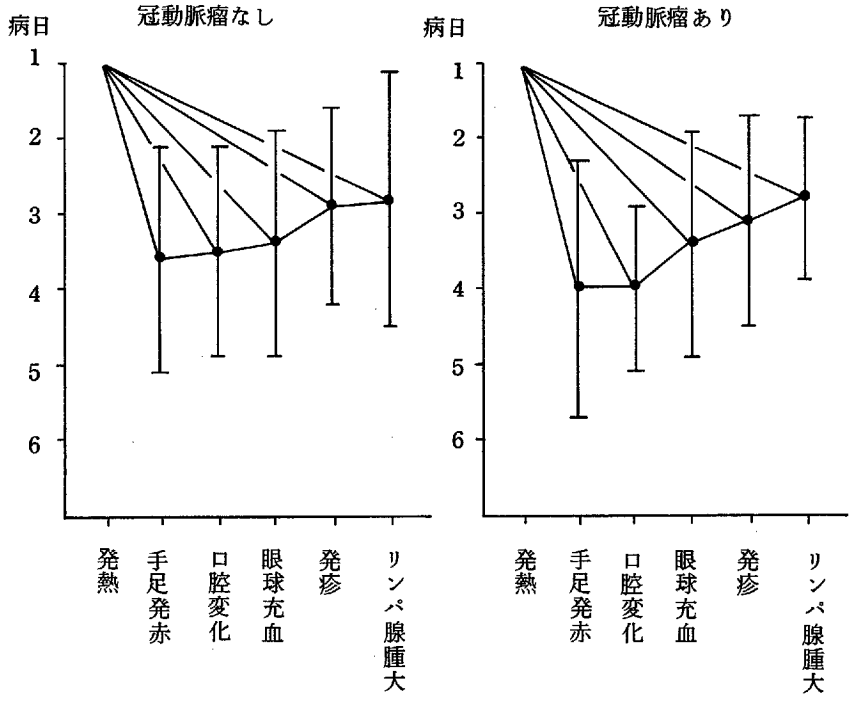

図 1　主要症状の出現病日

歳以上とでは，急性期症状の発現様式に種々の差がみられた。③冠動脈瘤あり群では，口腔変化，手足発赤の出現が遅れる傾向にあった（図1）。④冠動脈瘤あり群において，第1病日に発疹の出現をみた例はなかった。⑤1歳未満の冠動脈瘤あり群では，発熱→発疹→眼球充血→口腔変化の順に症状の発現する例が多く（表1），また発疹，眼球充血，口腔変化が2日以内に出揃う頻度は低かった（表2）。⑥1歳以上の冠動脈瘤あり群において，発熱，発疹，眼球充血，口腔変化が出揃うためには全例4日以上を要した（表3）。

考察　川崎病の冠動脈瘤の発生を病初期に予測することは，その後の治療と管理を適切に行ううえで重要である。この目的で，病初期の検査成績から評価する試みがすでに報告されている。浅井らは，臨床症状を用いて同様な試みを行い，興味ある結果を得ている。今回の検討からは，

冠動脈瘤の有無と急性期の臨床症状の発現様式とのあいだに明瞭な関係はみられなかったが，その理由の1つは浅井らの方法と分析方法が異なるためと考えられる。しかしながら，結果で述べたように各群間において症状の発現様式にいくつかの量的な差が認められたことから，より多くの症例を対象にし，分析方法を工夫することにより，臨床症状を組み込んだ方法で冠動脈瘤発生の早期予測へと発展させることが期待される。

文　献

1) 中野博行ら：川崎病冠動脈瘤発生の予測スコアについての検討：日小児会誌，90，1598，1986.

2) 中野博行：川崎病の現況，冠動脈病変予知因子：小児科，28，1021，1987

3) 浅井利夫ら，臨床症状による川崎病の病初期重症度判定の試み：第7回日本川崎病研究会，大阪，1987

Abstract

Prediction of Coronary Artery Aneurysms in Patients with Kawasaki Disease from Analysis of Principal Symtoms

Hiroyuki Nakano*

Six principal symptoms were retrospectively analyzed to predict the development of coronary artery aneurysms in 116 patients with Kawasaki disease. The present method failed to separate definitely two groups of patients with or without coronary aneurysms, but the following results were obtained. 1) Age difference was found in the mode of appearance of symptpms regardless of coronary involvement. 2) In patients with coronary aneurysms, changes of oral mucosa and peripheral extremities were delayed to occur. 3) No patients with coronary aneurysms manifested a erythematous rash on the first day of illnes. 4) Most patients under one year old with coronary aneurysms developed fever, rash, red eyes and changes of oral mucosa, in this order. 5) More than four days were required for the development of fever, rash, red eyes and changes of oral mucosa in all patients over one year old with coronary aneurysms.

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約 川崎病の急性期臨床症状から冠動脈瘤発生の予測を試みる目的で主要症状の発現様式を検討したが,今回の分析からは冠動脈瘤の発生を予測し得る明らかな情報は得られなかった。